

# 『青光塗』のための新規色漆の開発（第2報）

工芸

研究期間：令和5～7年度



図1 青光塗の再現に使用する顔料と藍（代用石黄、黄色弁柄、沈殿藍）

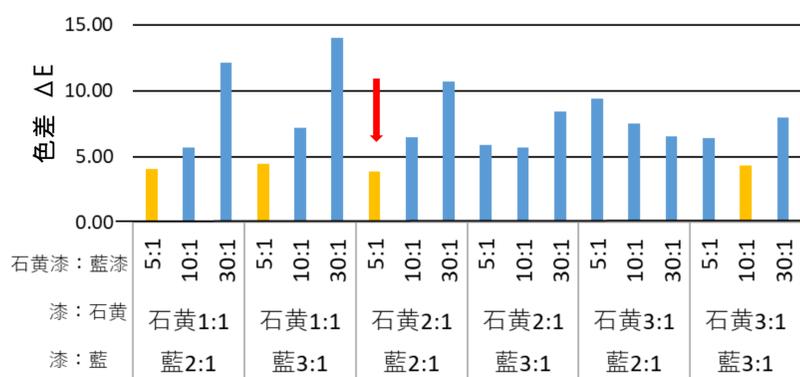


図2 代用石黄漆と藍漆の発色について

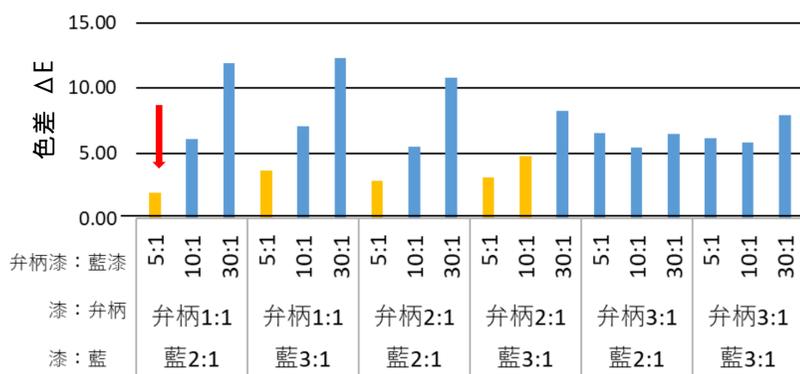


図3 黄色弁柄漆と藍漆の発色について

表1 代用石黄を使用した「青光塗」用漆の色変化

| 顔料                         | 耐候性試験時間 |       | 色差 ΔE |
|----------------------------|---------|-------|-------|
|                            | 0[h]    | 96[h] |       |
| 【代用石黄1:1】 : 【藍2:1】<br>5:1  |         |       | 3.80  |
| 【代用石黄1:1】 : 【藍3:1】<br>5:1  |         |       | 6.49  |
| 【代用石黄2:1】 : 【藍2:1】<br>5:1  |         |       | 3.77  |
| 【代用石黄3:1】 : 【藍3:1】<br>10:1 |         |       | 4.47  |

表2 黄色弁柄を使用した「青光塗」用漆の色変化

| 顔料                         | 耐候性試験時間 |       | 色差 ΔE |
|----------------------------|---------|-------|-------|
|                            | 0[h]    | 96[h] |       |
| 【黄色弁柄1:1】 : 【藍2:1】<br>5:1  |         |       | 3.75  |
| 【黄色弁柄1:1】 : 【藍3:1】<br>5:1  |         |       | 8.69  |
| 【黄色弁柄2:1】 : 【藍2:1】<br>5:1  |         |       | 5.34  |
| 【黄色弁柄3:1】 : 【藍3:1】<br>5:1  |         |       | 8.73  |
| 【黄色弁柄3:1】 : 【藍3:1】<br>10:1 |         |       | 11.3  |

## 背景・目的

江戸期から明治期にかけて、『青光塗（せいこうぬり）』と呼ばれる深緑色の漆器が製造されてきました。第1報では、黄色は石黄、青色は藍の華と呼ばれる藍建て時に発生する泡を漆に混合することで着色できることが分かりました。しかし、石黄や藍の華は、入手の難しさから実用的ではありません。そこで、石黄、藍の華の代替となる材料を選定し、現在入手可能な材料を使用して青光塗のための深緑色の色漆の作製条件を調べました。

## 研究内容

石黄の代替となる黄色顔料、藍の華の代替となる藍について確認しました。漆に顔料を混合し、色差計で色差ΔEを評価することで青光塗の発色に近くなる重量の比率を検証しました。

また、耐候性試験機を用いて、青光塗の色漆について、時間経過による色の変化を確認しました。

## 結果・まとめ

青光塗に使用する顔料として、代用石黄と黄色弁柄、沈殿藍が使用できることが分かりました。（図1）

漆と顔料、藍を混合し測色した結果、図2、図3の黄色で示す混合比の色漆が青光塗の発色に近くなることが分かりました。耐候性試験の結果、赤丸で示した代用石黄を使用した色漆、黄色弁柄を使用した色漆の混合条件で青光塗の発色に近くなることが分かりました。（表1、表2）

担当科 福島県ハイテクプラザ  
会津若松技術支援センター 産業工芸科  
吾子可苗  
TEL : 0242-39-2978



令和6年度 試験研究概要